

IV 宮崎県特別支援教育研究連合 各研究部会

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「視覚障がいのある幼児児童生徒に対する指導・支援の在り方について研修し、視覚障がい教育の充実発展と教員の資質向上を図ると共に、各学校や関係機関との情報の共有化を図る。」

2 主な研究・活動の内容

事業 内容	事業計画の概要		
	年月日	場所	実施内容
研究会及び研修会	R 6. 4月～6月	明星視覚支援学校	○基本研修(歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等)
	R 6. 4. 27 (土)	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展
	R 6. 5. 1 (水)	明星視覚支援学校	○課題研究開始
	R 6. 7. 25 (木) ～26 (金)	明星視覚支援学校	○全日本盲学校教育研究大会福岡大会
	R 6. 8. 6 (火)	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究部会 合同研修会 ○視覚障がい教育研究部会 代議員会
	R 6. 8. 23 (金)	日向市	○あいあい教室日向
	R 6. 10. 18 (金)	明星視覚支援学校	○あいあい教室
	R 6. 11. 15 (金)	明星視覚支援学校	○九州地区盲学校教育研究会(福岡大会) ○教材教具展示会
	R 6. 12. 5 (木)	明星視覚支援学校	「令和6年度 未来を拓く!特別支援学校「自立と社会参加」推進事業「ICTを活用した授業に関する研究」研究公開:冊子完成
	R 6. 12. 12 (木)	明星視覚支援学校	「令和6年度 未来を拓く!特別支援学校「自立と社会参加」推進事業「ICTを活用した授業に関する研究」研究公開
その他	R 7. 1. 24 (金) ～25 (土)	愛知県	○日弱研名古屋大会参加
	R 7. 3. 5 (水)	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究報告会
	○ しろやま(延岡しろやま支援学校)、日向、小林サテライト 5～3月 月1回 ○ 宮大サテライト(宮崎大学医学部附属病院) 4～3月 月1回 ○ 都城サテライト 年2回 ○ 日南サテライト 年1回 ○ 実践授業(本校) 7月、10月、12月に実施		
	○ 今年度は、「令和6年度 未来を拓く!特別支援学校「自立と社会参加」推進事業「ICTを活用した授業に関する研究」の研究指定校であった。		
	○ 本年度は九盲研(福岡大会)第1分科会で研究発表を行った。		

(1) 合同研修会

講師に「国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 広瀬 浩二郎 教授」をお招きし、全盲児への触察を含む教科指導における教材やイメージを構築する教材教具やその具体的な実践例の講義を受講し、さらに指導・支援に助言をいただいた。関係者への専門性の向上及び地域への視覚支援教育の理解・推進を図る。研修会には小学校、県立高校、大学、発達支援センター、県教委からも参加いただいた。

(2) 教材教具展示会

12月12日の研究公開一週間前から実施し、当日校外の参加者にも見ていただいた。

3 主な研究成果

本部会は、校外の会員はなしであった。今年度、九盲研(福岡大会)第1分科会で研究発表を行い、指導・助言者から、本校の取組を九州内へ発信してくださいと講評をいただいた。

聴覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「聴覚支援学校として各学部でできる取組」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

期日	活動	会場
6月11日	総会 運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)
7月29日	夏季研修会	都城さくら聴覚支援学校
7月29日	運営委員会	都城さくら聴覚支援学校
10月17、18日	第58回 全日本聾教育研究大会奈良大会	東京都立大塚ろう学校他
11月7、8日	第29回 九州地区聴覚障害教育研究大会福岡大会	福岡県立福岡聴覚特別支援学校他
2月中旬	運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)

(2) 聴覚障がい教育研究部会（以下聴覚部会）研修会について

- ① 講演会 演題 「新しい時代につなげる聴覚障がい教育」
講師 福祉型児童発達支援センターなでしこ園園長
五瀬 浩 氏

- ② 協議 「聴覚支援学校として各学部でできる取組（短期的視点、長期的視点）

3 主な研究成果

- 五瀬氏の講演では、聴覚支援学校としてできる取組について、経験を踏まえたお話を聞くことができた。また、難聴特別支援学級・通級指導教室設置校数をはじめ、現状の理解を深めるとともに、今後の教育で必要なことについて考えることができた。その後の協議では、自分の所属学部においてできるとよい取組を考え、意見交換を行った。短い時間ではあったが、2校の課題や共通点を確認したり、取組について意見交換したりすることができた。
- 難聴・言語部会とも連絡を行い、互いの研修会に参加できるように案内を送付し合うことができた。11月の難聴・言語部会の研修会には、聴覚部会から4名参加させていただいた。
- 研修として、各校の研修会の動画の共有を計画していたが、充実させることが難しかった。
- 事務局・会計担当と研修担当を、延岡しろやま支援学校（聴覚障がい教育部門）と都城さくら聴覚支援学校で分担して運営を行った。話し合いを経て、令和8年度まではそれぞれができる形での運営を行うこと、令和9年度以降の運営については、その時の各校の実情を踏まえた分担を検討する必要があることを確認した。状況に合わせて工夫しながら運営していく必要がある。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期日	会議内容及び活動概要	会場
6月14日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
8月6日	第13回知的部会研究大会（分科会）	日南くろしお支援学校
11月8日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月7日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 第63回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「福井大会」

令和6年11月21日・22日

- 第58回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「佐賀大会」

令和6年8月2日

提案発表者

◇第3分科会 各教科等を合わせた指導

提案発表者 宮崎市立田野中学校 教諭 満安 辰郎

◇第4分科会 キャリア教育・進路指導

提案発表者 都城きりしま支援学校 教諭 房安 一生

司会者 都城きりしま支援学校 教頭 森木 義彦

助言者 宮崎県教育庁特別支援教育課 指導主事 齋藤 志保

(3) 知的障がい教育研究部会研究大会の開催

- 第13回宮崎県特別支援教育研究連合 知的障がい教育研究大会「日南大会」

令和6年8月6日（8月9日から8月30日までオンライン配信）

研究大会実行委員長 日南くろしお支援学校 校長 木宮 浩二

研究大会事務局長 日南くろしお支援学校 教諭 吉田 ゆかり

研究大会主題 「知的障がいのある児童生徒の自立活動の指導

～個々の教育的ニーズに基づいた指導の充実を図るために～」

講演 演題 「知的障がいのある子どもの『良さ』を生かした自立指導の在り方」

講師 岡山県立岡山南支援学校 主幹教諭 德田 朋子 氏

3 主な活動の成果

今年度は県特研連の研究大会と併催する形で、研特連研究大会の午後から分科会として障がい種別の研究大会を実施した。知的部会では、日南くろしお支援学校が企画運営を担当し、岡山南支援学校より徳田先生を迎えて、教育講演会が行われた。子どもの「良さ」に着目して指導することについて、たくさんの実践を交えながら私たちのこれから指導につながる大変貴重な話を聞くことができた。

運営面では、研究大会の案内の時点での情報が錯綜してしまい、情報発信の仕方に大きな課題があることがわかった。次回大会に向けて、今後は事務局と担当校が密に連携しながら大会マニュアルを整備し、準備を進めしていくことを確認している。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

新しい時代の肢体不自由教育の充実を目指して

2 主な研究・活動の内容

(1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		24日(金) 九肢研（熊本大会）役員会及び総会<オンライン開催>
6月	7日(金) 第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議員会<オンライン会議>	
7月		
8月	6日(火) 第26回肢体不自由教育研究大会 <オンライン開催> 27日(火) 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議員会 <オンライン会議>	
9月		
10月		
11月		13日(水)～15日(金) 第61回九州地区肢体不自由教育研究大会（熊本大会） 13日(水)～15日(金) 第70回全国肢体不自由教育研究協議会（熊本大会）
12月		
1月	14日(火) 第3回肢体不自由教育部会 理事会・代議委員会<場所 延岡しろやま支援学校> 部会誌第29号発行	
2月		
3月		

(2) 第26回肢体不自由教育研究大会

本年度も、オンラインによる研究大会を実施した。昨年度のアンケートより学びたいというニ

ズの高かった「肢体不自由教育におけるＩＣＴの活用」について、国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 主任研究員の織田晃嘉先生に講話ををしていただいた。オンラインで講師と受講者の各会場を中継し、本会の会員 83 名に加え、他の特別支援学校職員 1 名、公立小中学校職員 4 名、合計 88 名が参加した。

3 主な研究成果

両校以外の県内特別支援学校や小中学校にも案内要項を配布したことでの、肢体不自由教育の理解・啓発にもつながり、より多くの職員が肢体不自由教育の専門性を高める機会を得ることができた。それぞれに、明日からの授業のヒントを得ることができた充実した内容の研究大会となった。また夏季休業中には研究大会で学んだことを実践し、児童生徒の実態把握に努めたり、実態にあつた授業を計画したりするなど、研究大会の学びが肢体不自由教育の専門性の向上の一助となった。さらに、専門性の向上に向けて、児童生徒のための教材の購入等、肢体不自由教育の充実を図ることができた。

今後も、ＩＣＴを活用した指導の充実や、肢体不自由教育における専門性の向上を目指して活動していく。また、肢体不自由教育のセンター的機能の役割を担うべく、引き続き小中学校等にも理解・啓発を促していく。

【研究大会の様子】



病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「病弱特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	事業内容
5月7日	病弱教育研究部会理事会
6月13日	病弱教育研究部会理事会
5月～7月	理論研修 ・「新たな教師の学び」基礎的研修シリーズの視聴 ・Co-MaMeに関する基本研修 ・外部講師招聘による研修（ミリョクラボ代表 吉元寿林 氏）
8月6日	宮崎県特研連研究大会病弱教育研究部会研修会 (独立行政法人国立病院機構宮崎東病院 児童精神科医長 橋口浩志 氏)
8月7日～30日	全病連栃木大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加）
8月22日	九病連熊本大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加）
9月～1月	個人およびグループ研修 授業検討・実践および実践事例報告書の作成
2月上旬	病弱教育研究部会理事会

(2) 研修会報告等

○ 外部講師招聘による研修

ミリョクラボ代表の吉元氏を講師に招き、「教育現場における生成AIの活用について」のテーマについて研修会を実施した。生成AIの特徴や教育現場での活用方法、使用上の注意点等について、実際に生成AIを操作しながら研修を行った。

○ 宮崎県特研連研究大会病弱教育研究部会研修会

独立行政法人国立病院機構宮崎東病院児童精神科医長の橋口先生を講師に招き、「不登校傾向等のある児童・生徒への理解と支援」の演題で講演会を実施した。不登校の定義や実態について、資料や実際の症例等も踏まえて知ることができた。また、学校という立場からどのように対応・支援していくかを学ぶことができる機会となった。

3 主な研究成果

本年度、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をテーマに掲げ、各自で実践事業を行っていく上で、同学部で児童生徒の実態が共有しやすい横割りのグループと、小中高の各教科で学びの系統性を考えやすい縦割りのグループを作成し、授業内容や指導方法、教材教具の工夫等について検討や協議を行っている。複数の視点から授業作りを行うことができ、現在、大変有意義に研究を進めることできている。引き続き効果的に取り組みながら、授業実践を行っていきたい。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来に向けて 自分らしく生きる みやざきの子どもの育成」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期日	場所	内 容
第1回研究会	4月23日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた検討
第1回事務局会	5月14日(火)	宮崎南小学校	・ 年間事業計画検討
第1回理事会	6月4日(火)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 総会決議(紙面決裁) ・ 年間事業計画検討
第2回研究会	6月13日(木)	宮崎小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表(リハーサル)
夏季研修会	7月12日(金)	市民文化ホール	・ 情緒障がい教育分科会(合同研修会)
第3回研究会	7月19日(金)	宮崎南小学校	・ 九情研大会・通級研修会に向けて
通級指導教室担当者研修会	10月3日(木)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・ 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第2回事務局会	10月16日(水)	宮崎南小学校	・ 今後の事業計画等について
第4回研究会			・ R7以降の九情研実践発表に向けて
第3回事務局会	12月9日(月)	宮崎南小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第2回理事会	2月17日(月)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月12日(水)	宮崎南小学校	・ 本年度の反省(理事会を受けて) ・ 次年度の事業計画について

3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し3年目となり、拠点校設置の良さを生かしながら、事務局員と連携を密にし、ようやく円滑な部会運営を図ることができた。

今年度は参考集型による会議やZoomを使用したオンライン会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

(1) 成果

夏季研修会は、他の研究部会と合同で開催した。今年度、第53回九州地区情緒障害教育研究会「佐賀大会」の自閉症・情緒分科会の実践発表者である、宮崎小学校 小野友香教諭の実践発表を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

また、令和9年度「鹿児島大会」の発表者の決定、および、令和10年度九州地区情緒障害教育研究会「宮崎大会」に向けた組織づくりについても協議を始めた。

さらに、通級指導教室担当者研修会(オンライン)を開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に、通級による指導の在り方や具体的な事例などの講演をしていただき、大変好評であった。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。また、通常の学級に在籍する児童生徒の指導の困難さも増し、通級による指導を必要としている児童・生徒の割合がさらに高まっているため、通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員が求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や高等学校を含めた関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

令和6年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方～人と関わる力を高める支援を通して～」

2 活動内容

期日	活動の概要	場 所
5月14日 (火)	第1回研修会 ・ 宮崎県難聴・言語障がい教育研究総会、専門部会 ・ 九難言沖縄大会発表検討会（川南小 竹田泰代 教諭） ・ 専門部会及び協議 ・ 全体会	宮崎県立図書館研修ホール
6月25日 (火)	第2回研修会 ・ 九難言沖縄大会発表検討会（川南小 竹田泰代 教諭） ・ 九難言熊本大会発表検討会（南郷小 上村聰子 教諭） ・ 専門部会及び協議	新富町総合交流センターきらり
8月6日 (火)	第3回研修会 宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 ・ 講演「次世代のユニバーサルデザイン『Next UD』の観点からテクノロジーを考える」講師：兵庫教育大学大学院学校教育研究会 教授 小川修史 氏 ・ 障がい種別教育研究部会研修会 講演「吃音のある児童への指導と保護者へのサポートについて」講師：金沢大学 教授 小林明宏 氏	オンライン開催
8月9日 (金) 8月10日 (土)	全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会 九州地区難聴・言語障害教育研究会沖縄大会 ・ アトラクション、総会・開会行事 ・ 記念講演（牧野泰美 氏）・基調講演（堀之内恵司 氏） ・ 分科会（構音・吃音・言語発達）提案・協議・講義	・ 沖縄県那覇文化芸術劇場なはーと ・ オンデマンド
11月29日 (金)	第4回研修会 ・ 九難言沖縄大会発表報告会（川南小 竹田泰代 教諭） ・ 九難言熊本大会発表検討会（南郷小 上村聰子 教諭） ・ 講義「多様な子どもを支える通級指導教室の在り方」講師：国立特別支援教育総合研究所研究企画部上席総括研究委員兼部長 牧野泰美 氏 ・ 専門部会、全体会	新富町総合交流センターきらり
2月7日 (金)	第5回研修会 ・ 九難言熊本大会発表検討会（南郷小 上村聰子 教諭） ・ グループ協議 ・ 専門部会及び全大会	新富町総合交流センターきらり

3 成果と課題

(1) 成果

本年度も、昨年度に引き続き、講話・講演等を実施するとともに、会員同士の協議、情報交換を行うことができた。例年実施していた10月の研修会については、昨年度の反省を踏まえ、本年度は8月の宮崎県特別支援教育研究連合研究大会に合わせる形で研修会を行うことができた。

また、8月に、全国公立難聴・言語障害研究協議会沖縄大会が開催され、本会からも発表者を選出し実践発表を行うことができた。この実践発表に向けて、本研修会で発表者の研究内容を検討し、全体で研修を深めることができた。

(2) 課題

ことば・きこえの教室、難聴学級での指導は、児童一人一人の実態や課題に合わせて進めるために、基本となる手立てや専門的な技術を習得する必要がある。研修会での講話や情報交換会の中で得られた実践を、それぞれが教室や学級で実践できている。しかし、経験が少ない担当者もいることから、県教育委員会主催の研修等で経験年数が少ない担当者向けの研修の機会を希望したい。